

指導資料

幼児教育第20号

鹿児島県総合教育センター
平成31年4月発行

対象 幼稚園 小学校 義務教育学校
校種 特別支援学校

幼稚園教育における「主体的・対話的で深い学び」の視点と保育の工夫

幼児の活動が展開する過程において、主体的・対話的で深い学びが実現するように教師が絶えず指導の改善を図っていくことが求められている。そこで、活動（遊び）を通じた「主体的・対話的で深い学び」の視点と保育の工夫について具体例を示す。

1 はじめに

平成30年度から全面実施された幼稚園教育要領には、多様な体験に関連して、幼児の発達に即した主体的・対話的で深い学びについて次のように示されている。

第1章 総則 第4 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価

3 指導計画作成上の留意事項

- (2) 幼児が様々な人やものとの関わりを通して、多様な体験をし、心身の調和のとれた発達を促すようにしていくこと。その際、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現するようにするとともに、心を動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、幼稚園生活が充実するようにすること。 (下線は筆者)

これは、単に教師が望ましいと思う活動を一方的にさせたり、様々な活動を提供したりすればよいということではない。幼児の活動を精選し、体験の質を考慮しながら、幼児自身の内面の成長につながっていく保育を展開していくことが大切である。

本稿では、幼児の遊びにおける「主体的・対話的で深い学び」をどのように捉え、保育に生かしていくかについて具体例を基に考える。

2 幼稚園教育における「主体的・対話的で深い学び」について

(1) 主体的な学び

主体的な学びは、周囲の環境に興味や関心をもって積極的に働き掛け、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返って、期待をもちながら、次につなげる「主体的な学び」を実現できているかを視点として捉える。したがって、これから何をして遊ぶのか、何を作るのかを考え、失敗にくじけず期待をもって、粘り強く取り組んだり、それを振り返ったりしながら、次につなげていく活動が展開できるようにすることが大事である。

具体的に、砂場でのケーキ作りを通して、主体的な学びについて考えてみる。例えば、幼児が砂場で遊ぶ中で友達の作ったケーキに心が動き「自分もケーキを作りたい」という思いをもったとする。幼児はその思いを基に、形や材料、用具などを選択し、それらを使いながら、自分のイメージしたケーキ作りを進め遊びに没頭していく。そして、ケーキが出来上がると「きれいにできた」、「次は、もっとすごいケーキを作りたい」など満足感や達成感を味わうとともに、これまでの遊びを振り返りながら次の遊びへの思いを広げていく。(図1)

このような幼児の姿に着眼していくことが、主体的な学びが実現されているかを捉える視点として考えられる。したがって、教師は、幼児の遊びの様子を主体的な学びの視点から

捉え、保育の意図や援助について考えることが重要になる。さらに、教師は、幼児が作りたい物のイメージを共有し、活動の中で関わる環境（人、もの、空間等）が豊かなものになるよう構成していくことも必要である。

(2) 対話的な学び



図1 ケーキ作りを通した主体的な学びの様子

対話的な学びは、他者との関わりを深める中で自分の思いや考えを表現し伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力したりして自らの考えを広げ深める「対話的な学び」を実現できているかを視点として捉える。したがって、単なるおしゃべりではなく「こんなものを見つけたよ」とか「こうしてみようか」など、それぞれの感じたことや考えたことを伝え合うことが必要となる。

具体的に、積み木遊びを通して、対話的な学びについて考えてみる。例えば、幼児が積み木を使って何を作るか友達と話し合い、階段づくりを始めるとする。その中で、幼児は折り合いをつけ同じ数ずつ分けることで仲良く遊べることや友達と協力し、積み木をずらさないように積むことで崩れにくくなることなどに気付いていく。（図2）

このように、幼児が、他者との関わりを深める中で自分の思いや考えを表現したり、考えを広げ深めたりしている様子などに着眼していくことが、対話的な学びが実現されているかを捉える視点として考えられる。したがって、遊びの中で、対話的な学びを実現して

いくために、会話を通して他者の考えを取り込み、自分の考えを更に構築したり、ものや自然などと関わる中で新たな気付きや学びが生まれたりすることができるような活動を展開することが大事である。

(3) 深い学び

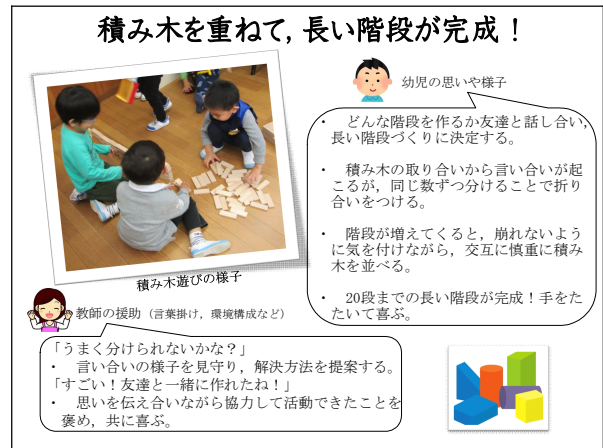


図2 積み木遊びを通した対話的な学びの様子

深い学びは、直接的・具体的な体験の中で「見方・考え方」を働かせて対象と関わって心を動かし、幼児なりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返す、生活を意味あるものとして捉える「深い学び」を実現できているかを視点として捉える。したがって、活動の結果や感想だけではなく、「なぜ」、「どうやって」などの疑問が湧き出るような活動を考えることが大切である。

具体的に泥団子作り遊びを通して深い学びについて考えてみる。例えば、幼児が、泥団子作り遊びの中でどうすればこわれない泥団子を作ることができるか考えるとする。幼児は、多様な方法を試したり、友達と話し合ったりしながら水を加え、砂を付け足し、時間をかけて作っていくことで、固さや光沢のあるこわれにくい泥団子を作ることができることに気付いていく。

このように、遊びで得た感覚や知識を生かしたり、友達と気付きを共有したりしながら体験を重ね、その中で、「仕組み」や「仕掛け」、「理由」などを考えている姿に着眼していくことが深い学びが実現されているかを

捉える視点として考えられる。したがって、一つの体験によって、次にやりたいことが生まれ、その後の活動につながる体験を繰り返すことなど深い学びにつながる要素を保育プランに生かしていくことが大事である。

3 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした幼児の姿と保育の工夫の具体例

ここでは、「遊園地ごっこ～乗り物を作って遊ぼう～」の活動の様子から、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした、保育の工夫を考えてみる。（図3）

具体例：遊園地ごっこをしよう
○ 活動内容 乗り物を作って遊ぼう
○ 対象児・時期 5歳児・10月下旬
○ 場面の設定及び活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 秋の遠足で遊園地に行き、乗り物作りがしたいという思いが高まる。 ・ グループごとに乗り物を決めて、製作を始める。 ・ なかなか満足したものが作れずに苦戦する。 ・ それぞれがアイデアを出し合いながら乗り物作りに没頭する。 ・ 数日かけて、乗り物が完成する。



図3 「遊園地ごっこ～乗り物を作って遊ぼう～」

「遊園地ごっこをしよう」の活動を通した「主体的・対話的で深い学び」の姿について表1のように整理することができる。

表1 「主体的・対話的で深い学び」の姿

<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠足で楽しかったことを再現している。(興味や関心, 好奇心) ・ 必要な材料や道具を準備して、活動を進めている。(見通し) ・ 自力で乗り物作りにチャレンジしている。(自発性, 探求心) ・ グループで協力しながら作っている。(目的の共有, 協力) ・ アイデアを出し合い作っている。(話し合い, イメージの共有, 共感) ・ 箱を組み合わせて、乗り物の見立てを行っている。(イメージの共有) ・ 形に注目するなど実物と関連付けている。(試行錯誤, 比較, 関連性の発見) ・ 満足できるまで取り組んでいる。(粘り強さ, 持続性) ・ 重ねて切るなど効率的に工夫している。(規則性や法則性の発見と活用) ・ 遊びや活動の振り返りをしている。(振り返り, 見通し) ・ 完成した喜びを味わっている。(感触・感覚・感動)
--

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すには、活動が展開する過程において、幼

児の活動がより豊かになるように促していくことが大切である。ここでは、次のような保育の工夫が考えられる。

環境構成

- ・ 楽しかったことを想起させるため、遠足の写真や子供たちが描いた絵、遊園地のパンフレットなどを壁面に掲示する。
- ・ 遊園地を再現するため、保育室に乗り物ブースを設置する。
- ・ 使いたい材料を選べるように、大きさや形の違うダンボール箱等を準備する。

関わりや留意点

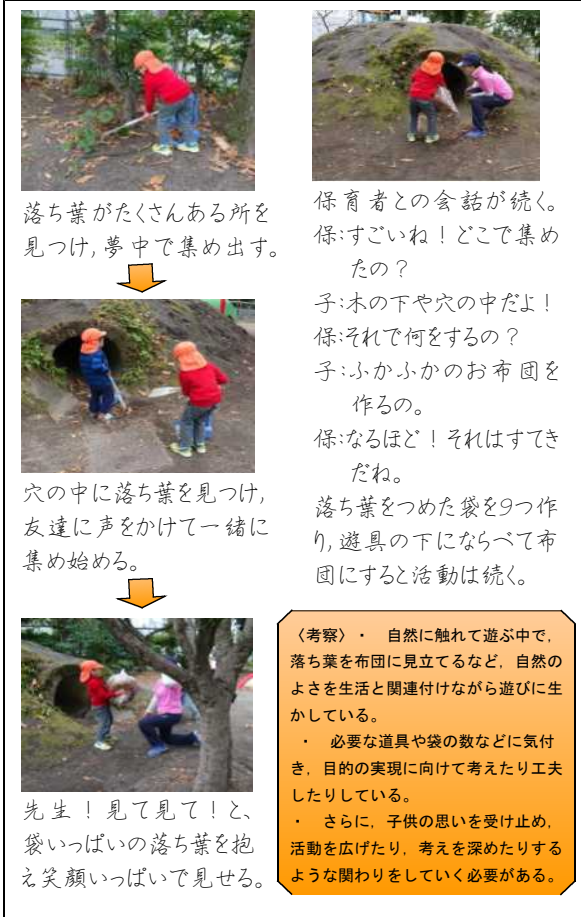
- ・ 一人一人の幼児の体験に目を向け、それを理解する。
- ・ 幼児の体験を共感・共有し、意欲付けや次の活動への動機付けを図る。
- ・ 興味や関心を追究できるような環境を配慮し、適切な援助をする
- ・ 幼児の言語化されていない諸感覚を含み、幼児が体験を通して何を学んだのかを理解する。
- ・ 時間的な隔たりをもって、幼児の体験の関連性を捉える。

4 園全体での取組の具体例

幼稚園では、園長のリーダーシップの下、園全体で保育について考え、保育を工夫していくことも必要である。ここでは「主体的・対話的で深い学び」の視点から幼児の姿を捉え、写真やエピソードに整理したドキュメンテーション[※]の具体例を紹介する。（図4）

ドキュメンテーションを活用することで、幼児の姿を多面的に捉えて可視化し、育ちや可能性について職員間で共有しながら幼児理解を深めることができる。また、幼児の体験がつながりを持ち、学びがより豊かになるような保育の工夫について話し合い、環境の再構成や幼児との関わりなどについて、工夫・改善していくことにつながっていく。

4歳児(11月)ふかふかの落ち葉布団を作りたい！



落ち葉がたくさんある所を見つけ、夢中で集め出す。

保育者との会話が続く。保:すごいね!どこで集めたの?
子:木の下や穴の中だよ!
保:それで何をするの?
子:ふかふかのお布団を作るの。
保:なるほど!それはすてきだね。
落ち葉をつめた袋を9つ作り、遊具の下にならべて布団にすると活動は続く。

穴の中に落ち葉を見つけ、友達に声をかけて一緒に集め始める。

先生!見て見て!と、袋いっぱい落ち葉を抱え笑顔いっぱいで見せる。

〈考察〉・ 自然に触れて遊ぶ中で、落ち葉を布団に見立てるなど、自然のよさを生活と関連付けながら遊びに生かしている。
・ 必要な道具や袋の数などに気付き、目的の実現に向けて考えたり工夫したりしている。
・ さらに、子供の思いを受け止め、活動を広げたり、考えを深めたりするような関わりをしていく必要がある。

図4 ドキュメンテーション例

5 おわりに

「主体的・対話的で深い学び」は、相互に関連し合い、子供の遊びの中で一体として実現されていくものである。幼児の活動が展開する過程において、心を動かされる体験が新たな活動を生み出すような保育を行っていく必要がある。

—引用・参考文献—

- 『幼稚園教育要領』H30 文部科学省
- 『幼稚園教育要領解説』H30 文部科学省
- 『幼稚園教育要領まるわかりガイド』無藤 隆 編著 チャイルド本社
- ぽっけ PLAZA『幼児教育における主体的・対話的で深い学びは活動の展開で進める』
http://www.en-pokke.com/news_service/view/1440
- これからの幼児教育を考える 2011
園内ワークシート Benesse 世代育成研究所
- 関連資料：幼稚園教育Q&A
総合教育センター Web サイト➡
(教職研修課 田子山 ゆかり)



※ ドキュメンテーション：写真やその写真に添えられた文言などによって幼児の活動（遊び）やそこの学びを記録するためのもの。